

彼我兵力交戦セシ敵兵團隊號及將師氏名

一我力参加兵力

大隊長信澤少佐以下七一六名

大隊本部 (大行李子欠)

第九中隊 (示隊欠) 聯隊豫備隊トシテ参加ス

但第一小隊八百午後五時頃第一線ニ増加セラル

第十中隊

第十一中隊

第十二中隊 (十日八聯隊豫備隊トシテ行動ス)

第三機關銃中隊

二直接協力並配属部隊

工兵第十四聯隊第一中隊、約一小隊

歩兵砲隊(十日以降八百午後三時頃迄)

独立機關銃中隊
聯隊砲中隊

三敵、兵力

十日 約 一〇〇〇名

十一日 約 二〇〇〇名

十二日 約 三〇〇〇名

四敵、團隊號

八十六師、八十七師、青浦壯丁訓練隊

五敵、將師氏名

總師 唐生智 師長 其他直接指揮_官 不明

戰鬥ノ成績

- 一 十二月十日戰鬥開始以來師團主攻擊正面第一線大隊トシテ常ニ難局ニ立チ自ラ活路ヲ打開シテ友軍ノ前進ヲ誘致シ戰鬥ノ進捗ヲ圖リ特ニ各隊ニ魁シテ南京城雨巷門占領ニ成功シ師團正面ニ於ケル戰局發展ノ主因ヲナシタルハ蓋シ其成果大ナルモノト認ム
- 二 敵ノ遺棄死体ハ〇〇戰場ニ於ケル遺棄兵器彈藥ハ夥シキ數ニ上リ之等物質上ニ直接與ヘタル成果ハ極メテ大ナルモノアリ
- 三 金陵兵工廠ノ占領確保ニ依リ同工廠ヲシテ兵火ヲ免カレシメ且多數ノ鹵獲兵器ヲ得タルハ爾後ノ作戰上ニ大貢獻ヲナシタルモノト認ム
- 四 死傷表武器彈藥損耗表鹵獲表附表第一乃至第三ノ如シ

參考トナルヘキ事項

(一) 戰鬥經過ニ關スル事項

八、十日午前ニ於ケル陳家北方高地(一)附近占領ニ於ケル第一線歩兵ト重火器ノ協調及歩兵ノ協調ヲ始メ十二日ニ於ケル歩砲工ノ協調ハ全ク理想的ニ行ハレ特ニ工兵ノ獻身的且勇敢密接ナル協力奮闘ハ敬服ニ堪ヘサル所ナリ

2、攻撃前進方向或ハ右ニ或ハ左ニ偏シ戰鬥地境ト一致セサルモノアルモ終始兩翼部隊ノ進出遲レ常ニ友軍ニ魅ケテ前進シ戰鬥ノ進捗ヲ圖リ友軍ヲ誘致シタル狀況上當面ノ敵情ト地形ニ應シ最モ有利ニ地形ヲ利用シタルモノニシテ當時ノ情況上止ムヲ得サリシノミナラス最モ適切ナル戰鬥ヲ實施シタルモノト確信ス即チ情況ニヨリテハ戰鬥地境等ニ一々拘泥セサルヲ可トスルコトアリ

(二) 敵ニ關スル事項

1、陣地前要害ニ對スル狙撃的急襲射撃ハ迅速且彈著比較的良好ナリ
2、當面ノ敵ハ行動勇敢ニシテ企圖心ニ富ミ屢々逆襲ニ出タルコトアルモ逆襲ノ手段ハ拙劣且殆シト突撃シ来ルコトナキヲ以テ充分近接ヲ

ヲ待テ一撃ニ之ヲ殲滅スルノ著意ト沈着ヲ要ス

3. 南京附近敵陣地ノトチカ掩蓋機関銃座ハ丘陵上制高地矣ニ構築セルモノ多ク近接スルニ從ヒ死角大トナリ手榴彈等ニ依ル撲滅容易ナリ

4. 鐵條網ハ一般ニ近ク陣地直前ニシテ單ニ敵ノ前進行動ヲ阻止スルニ止マリ射界ヲ良好ニシ火力ヲ併用スルノ着意乏シ從ヒテ死角ヲ利用近接シ器具ニ依ル破壊ヲ實施シ得ルコト多シ

5. 晝間陣地ニヨリ頑強ニ抵抗セル敵モ夜間ニ至レハ必ス或ル線迄後退スルヲ通常トセリ

其ノ時機ハ概テ夜半ヨリ拂曉ニ時間前ニ後退セリ而シテ夜間ト雖モ間断ナク射撃ヲ行フモ特ニ退却直前ニハ射撃一層大ナリ時機ノ捕捉ニ留意スルヲ要ス

6. 城壁ノ突入ニ際シ城壁上ノ敵ハ盛ニ手榴彈ヲ投擲セルモ平素ト全ク同シク遠ク投擲スルヲ以テ城壁下約三十米ハ死角ヲ生シ城壁下ニ迫レルモノハ比較的死傷少シ

(三) 我若シ防者タラハ手榴彈ヲ時々直下ニ落下スルノ著意ヲ必要トス
裝備ニ就テ

砲兵歩兵砲等ノ協力ヲ得ル場合ト雖モ局部的ニハ意ノ如クナラサルコト多ク且自ラ活路ヲ開キ戰鬥ノ進展ヲ期スル爲ニハ少クモ輕擲彈筒ヲ重擲彈筒トスルヲ要ス

(四) 訓練ニ關スル事項

1. 射撃開始迄ノ行動及陣地点領ノ際ニ於ケル遮蔽ニハ小銃輕機重機ヲ用ハス更ニ徹底セシメ無益ノ損害ヲ減少スルコトニ努ムルヲ要ス

2. 歩操第百六十三乃至第百六十五ハ特ニ徹底的訓練ヲ要ス

概シテ各個躍進ニ於テ不規ニ進出スルコトナク基一地物ヨリ逐次進出セシントスルヲ敵ニ狙撃ノ好目標ヲ呈スルコト多シ

3. 敵砲彈ニ対シ躊躇スルト狼狽スルハ損害ヲ増大スル因ナリ

基地兵基地物迄敢爲前進スルヲ要ス

4. 指揮官ハ重要目標ノ捕捉ト之ニ対スル急襲火力ノ集中ニ更ニ意ヲ

用フルヲ要ス
5. 鉄條網ノ器具ニ依ル破壊ハ實施ヲ要スル機會尠カラルニ鑑ミ歩兵隊
ニ於テモ一層訓練ヲ要スルモノアリ

歩二五作命第六二號

聯隊命令

十二月九日午後七時
於永慶庵東北方約二軒無名部落

一、敵ハ菓園村三角點四三ニ高地兩地ニ後線ヲ突々縱深ニ陣地ヲ占領シアルモノ如シ

師團ハ當面ノ敵ヲ突破シ速ニ南京ニ向ヒ肉迫ス秋山旅團ハ目下該敵ヲ攻撃中ナリ旅團ハ本夜永慶庵東側地ニ露營ス歩兵第百十五聯隊ハ東部ニ露營シ特ニ東方及東北方ニ對シ警戒ス

二、聯隊ハ永慶庵西部ニ露營セントス

三、各隊ハ別ニ示ス所ニヨリ露營スヘシ

四、兩大隊長ハ警戒ニ関シ露營地内ノ部隊ヲ区署スヘシ
第二大隊ハ旅團及聯隊砲中隊ノ警戒ヲ担任スヘシ
第三大隊ハ聯隊本部第一機關銃ノ警戒ヲ担任スヘシ
特ニ東方及後方ニ對シ警戒スヘシ

五 師團八二崗ニ休團ハ第一大隊露營地区ニ余ハ第一大隊露營地区ニ在リ

西部露營司令官 矢ヶ崎中佐

注意事項

- 一 本夜、露營地只第一線部隊ノ直後ナルヲ以テ警戒ハ至嚴ナルト共ニ屋外、露營火ヲ禁ス
- 二 本夜、露營地ハ民家少キ爲屋外利用者ハ敵方ト反対側ヲ利用セザレハ敵彈ヲ受クル恐レアリ（迫撃砲）
屋外ニテ不得、炊事ヲナス場合ハ穴ヲ掘テ爲スコト
下達法

命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシム

歩一二五作命第六三號

聯隊命令

十一月十日午前七時
於永慶庵

一 秋山旅團當面、敵ハ退却セルモノ、如シ師團ハ南京ニ向ヒ急進ス
旅團ハ本隊トナリ本道ヲ追撃スル爲本道上ニ集結ス

本隊ノ前進部署左、如シ

稻桓大隊、工兵聯隊、旅團司令部、歩兵第百十五聯隊、歩兵第百五十七聯隊

二 聯隊ハ直ニ本道ニ集合シ奥旅團ノ先頭ニアリテ敵ヲ追撃セントス

各隊ハ行軍序列ニ從ヒ逐次本道上ニ集合シ後命ヲ待ツヘシ
三 集合位置其他ニ就キテハ現場ニ於テ指示ス

行軍序列左、如シ

第三中隊一小隊、聯隊本部、通信班、第三隊主力、第二大隊、歩兵砲小隊、聯隊砲中隊、第三大隊、聯隊機關銃隊、第

一機關銃中隊、第四中隊

四 通信班ハ直チニ通信網ヲ撤收シ聯隊主力ニ追及スヘシ
五 各隊ハ特ニ團結ヲ鞏固ニシ殘敵ノ急襲ヲ警戒スヘシ
六 余ハ現在地出發交叉点附近ニ至ル

聯隊長

矢ヶ崎中佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

1266

歩二五作命第六十四號

聯隊命令

十二月十日午前九時
於蘇田橋北側

一 當面ノ敵ハ退却シツ、アリ

師團ハ重兵ヲ秋山旅團ニ保持シコレヲ追撃ス

旅團ヲ丁家巷、周家凹道（コレヲ含ム）以東ノ地区ヨリ重點ヲ

當聯隊ノ正面ニ保持シ一擧ニ敵ヲ追撃シ南京城壁ノ線

ニ進出セントス歩兵第百五十聯隊右第一線歩兵第百十五聯

隊左第一線兩聯隊ノ戰鬥地域丁家巷、鮮魚壩一帯

家門（戰場ハ左聯隊ニ屬ス）

二 聯隊ハ左第一線トナリ重兵ヲ丁家巷、周家凹道方向ニ指向

シ當面ノ敵ヲ追撃シ一擧ニ南京城壁ノ線ニ進出セントス

三 右ヨリ第三大隊（第九、第十二中隊欠）第二大隊（第七、第八中

隊欠）第一線兩大隊戰鬥地域ノ境界ハ現地ニ於テ示ス

四 歩兵砲小隊聯隊砲中隊ハ本道ニ沿フ地区ヲ前進シ主ト

シテ左大隊一部ヲ以テ右大隊ノ戦斗ニ協力スヘシ

五 通信班ハ聯隊本部旅團司令部兩大隊間ニ通信網ヲ構成スヘシ

六 第四中隊ハ旅團豫備隊トナリ現在地ニアリテ旅團高級副官ノ指揮ヲ受クヘシ

七 爾余ノ諸隊ハ豫備隊トナリ左大隊ノ後方ヲ前進スヘシ

八 余ハ豫備隊ト共ニ下家巷周家凹道ニ沿フ地区ヲ前進ス

聯隊長

矢ヶ崎中佐

1268

歩三五作命 第六十五號

聯隊命令

十二月十一日午前四時五分
於陳家南側

一 敵ハ我勸告ヲ容レス南京城外一連ノ陣地ニ於テ最後ノ抵抗ヲ辛シテ保持シ居レリ

師團ハ攻撃ノ重責ヲ當旅團方面ニ保持シ夜ニ入ルモ攻撃ヲ續行シ速カニ待望ノ南京攻略ヲ決行ス

歩兵第百ニテ旅團ハ左翼隊トナリ周家凹以西ノ地ニ攻撃シ砲兵ハ主力ヲ以テ朱家樓子附近ニ陣地ヲ占領シ敵砲兵ヲ制圧シ且南京城壁ノ破壊ニ任シ主トシテ右翼隊ノ戦斗ニ協力ス

騎兵ハ燕子山附近ニアリテ歩兵第百十五聯隊ノ右翼ト連絡シ攻撃ヲ續行ス

二 旅團(砲兵第百ニテ聯隊ニテ中隊及工兵第百四聯隊(第二中隊及ヲ配屬ス)ハル今師團ノ右翼隊トナリ周家凹東方地ニ

中隊及ヲ配屬ス)ハル今師團ノ右翼隊トナリ周家凹東方地ニ

中隊及ヲ配屬ス)ハル今師團ノ右翼隊トナリ周家凹東方地ニ

中隊及ヲ配屬ス)ハル今師團ノ右翼隊トナリ周家凹東方地ニ

中隊及ヲ配屬ス)ハル今師團ノ右翼隊トナリ周家凹東方地ニ

中隊及ヲ配屬ス)ハル今師團ノ右翼隊トナリ周家凹東方地ニ

中隊及ヲ配屬ス)ハル今師團ノ右翼隊トナリ周家凹東方地ニ

中隊及ヲ配屬ス)ハル今師團ノ右翼隊トナリ周家凹東方地ニ

中隊及ヲ配屬ス)ハル今師團ノ右翼隊トナリ周家凹東方地ニ

二進出シ一舉南京攻略ヲ決行ス

歩兵第百五十聯隊ハ依然聯隊ノ右ニ連繫シ周家凹東方地
区ニ進出シ爾後一部ヲ以テ昭和門ニ突入ス

三聯隊ハ右大隊正面ニ重點ヲ保持シ速ニ周家凹東方地区ニ進
出シ爾後一部ヲ以テ南京城東南角ニ突入セントス第三大隊
ニ第十中隊ヲ復帰セシム

四歩兵砲小隊及聯隊砲中隊ハ周家樓子附近ニ陣地ヲ占領
シ主力ヲ以テ右大隊一部ヲ左大隊ノ攻勢ニ協力スヘシ
五戰鬥地域ノ境界ハ左通リ変更セラル

兩翼隊間周家樓子—鮮魚亭—周家凹東方地区ヲ連ヌ
ル線(戰場ハ左翼隊ニ屬ス)

兩聯隊間牛王村—曹家門—南京東南角ヲ連ヌル線(戰場ハ
左聯隊ニ屬ス)

六砲兵ハ早朝ヨリ主トシテ歩兵第百五聯隊ノ戰鬥ニ協力ス

- 七 工兵ハ依然現任務ヲ續行ス
- 八 輕裝甲車隊ハ聯隊正面ニ協力ス
- 九 衛生隊及野戰病院ハ共ニ丁家巷附近ニ開設ス
- 十 余ハ暫ラク現在地ニマリ午前五時張家ニ前進シ爾後右大隊ノ後方ヲ前進ス

聯隊長 矢ヶ崎中佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

聯隊長注意事項

- 一 第一線部隊ハ現在地ニ所要ノ監視兵ヲ附シ背囊ヲ残置スルト
- 二 北村中尉ハ豫備隊ヲ以テ城内突入部隊ノ令ヲモ併セテ城外ニ於ケル糧秣ノ徵發炊事ニ任スルト

歩二五作命第六十六號

聯隊命令

十二月十五日午前十一時甲分
於曹家門

一 各大隊ハ一中隊ヲ城外ニ殘置シニ中隊ヲ以テ城内ヨリ別紙要領ニ依リ掃蕩スヘシ

ニ 城内突入り當リテ南京攻略要領及軍司令官注意事項ヲ確守スヘシ

(別紙要圖畧ス)

午後一時聯隊本部ハ曹家門ニ又路附近ニ達ス

歩二五作命第六十六號

聯隊命令

十月十日午後十時
於南京東南自附近

一 師團ハ主力ヲ周家凹雨花台ノ線以南ノ地区ニ集結シ一部ヲ以テ城
内ヲ掃蕩ス

右翼隊ハ主力ヲ所命ノ線以南ノ地区ニ集結シ一部ヲ以テ城内ヲ
掃蕩ス歩兵第百五十聯隊ハ鐵道線路(含ム)以東ノ地区ヲ掃蕩ス

二 聯隊ハ本早朝ヨリ城壁附近ニ近ク地步ヲ堅ク占メ敵ノ逆襲
ニ備ヘ城門ヲ警備シ且逐次鐵道線路以西(含マズ)ノ地区ヲ

掃蕩セントス第三大隊ハ先ヅ市政府ニ向ヒ次ヲ共和門ヨリ
西方ニ通スル道路ニ且ル間ヲ掃蕩スヘシ

第三大隊ハ一部ヲ以テ城門ノ警備ニ任シ主力ヲ以テ附近ノ
掃蕩ヲ行ヒ逐次北方ニ及ホスヘシ

三 豫備隊ハ依然現在地ニ位置シ第一線後方ノ補給救正備
ニ任スヘシ

細部ニ付イテ八別ニ豫備隊長ニ命ス

聯隊長 矢ヶ崎中佐

下違法

命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシム

機關銃隊長 陸軍歩兵大尉 永井作三

右ハ本戦闘間機關銃隊長トシテ終始克ク勇敢適切ニ部下中隊ヲ指揮
シ最高度ニ機關銃ノ威力ヲ發揮シ特ニ十日敵ノ逆襲ニ際シテ自身ヲ以
テ之ヲ撃退シ又雨巷門突入後大隊長代理トシテ戦闘指揮勇敢適
切ニシテ且常ニ最前線ニ在リテ大隊長ノ意圖ニ從ヒ又ハ独断他隊ヲ
教導スル等大隊ノ本戦捷獲得ヲ容易且迅速ナラシメ武勲拔群
ナルモノト認ム

1275

大隊副官 陸軍歩兵大尉 金栗敏光

右ハ本戦鬪間大隊副官トシテ克ク大隊長ヲ補佐シ十一日敵砲彈
ノ多ク負傷スルモ屈セス第一線ニアリ殊ニ十日大隊長戦死スルヤ命
ニヨリ大隊長ノ意圖ニ從ヒ大隊ヲ指揮シ常ニ勇敢ニ先行シテ戦
機ヲ捕捉シ砲兵歩兵砲等ト連絡ヲ密ニシ雨巷門突入ノ區署就
中ニ兵用法適切ニシテ突入ニ當リテハ率先城壁上ニ頑敵ヲ殲シテ
之ヲ占領シ日章旗ヲ翻シ優勢ナル十字火中ニ逆襲ヲ敢テ退シ以
テ城壁城門ヲ占領ヲ確保シ得タル武勲拔群ナルモノト認ム

1276

本戦闘ニ於テ功績特ニ顯著ナル者

一大隊本部 豫備役歩兵伍長 中島一雄

同 同 軍曹 深津静夫

同 同 上等兵 新井昌平

石水戦闘間常ニ最モ勇敢ニ奮闘シ特ニ十二月十二日午後一時大隊カ一攀城外ニ迫ルヤ門外橋梁ノ偵察ニ從事中独断敢然身ヲ踊ラシテ水中ニ飛入り泳渡ニ依リ敵岸ニ達シ猛烈ナル敵火ヲ意トセス砲撃ヲ依ル崩壊部ヨリ攀登シ一時ニ十分城壁ノ一角ヲ占領シ日章旗ヲ翻シテ南京城一番乗ヲ為シ指揮官ヲシテ強行架橋渡河可能ノ決断ヲ與ヘシメ爾後架橋作業間敵岸橋脚ヲ確保シテ克ク猛射ト我砲彈ノ危険ヲ避ケ架橋作業及部隊ノ強行渡河ヲ著ルシク容易ナラシメ加之部隊渡河スルマ部隊ノ先頭ニ立テテ城壁上ニ突入シ奮戦力闘大隊ノ戦捷獲得ヲ容易ナラシメタリ

一大隊本部 豫備役歩兵伍長 小林昇

右六日戦闘開始以來克ク本部傳令ヲ掌握シ率先無範勇敢ナル行動

ヲ以テ士氣ヲ鼓舞シ十月十日午前十時前後周家山東側高地ニ於テ敵ノ抵抗愈々頑強ヲ極メ動モスレハ戦闘交綏ニ陷ラントセル際附近傳令ヲ激勵シ敵陣雨下ヲ意トセズ第一線各隊間ヲ馳驅シ連絡ニ努メ其ノ沈着勇猛ナル奮斗ハ著ルシテ大隊ノ戦闘ヲ容易ナラシメタリ

一大隊本部 歩兵一等兵 今井七五三

右十月十日尚家樓子附近ニ於テ本戦斗ノ緒戦ニ於テ敵ノ迫撃砲依ル阻止射撃猛烈ニシテ動モスレハ第一線地形ニ膠着シ後方部隊ノ進出意ノ如クナラサル狀況ニアリテ極メテ勇敢ニ本部第一線中隊間、連絡ニ任シ克ク其ノ任務ヲ全シ當時ニ於ケル大隊ノ戦斗ヲ著ルシテ容易ナラシメタリ

- 一大隊本部 歩兵上等兵 高木勝二
- 同 同 木内尚可
- 同 同 飯塚徳寶
- 第十二中隊 歩兵一等兵 中野三次
- 大隊本部 同 井上國雄

右ハ本戦闘間大隊本部傳令トシテ行動極メテ勇敢ニシテ傳令トシテノ任務ヲ全クシ大隊ノ戦斗ヲ容易ナラシメタリ

一大隊本部 軍醫中尉 宮下貞雄
同 衛生伍長 飯塚大三

右ハ本戦闘間十日午後尚家樓子附近ニ於テ死傷者古名ヲ生スルヤ衛生兵補助擔架兵ヲ指揮シ敵砲彈炸裂ヲ意トセス手當及救出ニ努メ午後十時三十分全傷者ノ後送ヲ終ル又其ノ夜敵間諜ニヨル放火ヲ知ルヤ身ヲ挺シテ安置セル戦死体ニ医扱全部ヲ搬出セリ十日尚家門南方高地帯ノ終日ノ激戦間彈丸雨飛ノ第一線ニ於テ衛生部員ヲ指揮激勵死傷者ヲ救出收容スルコト實ニ七十八名朝未全ク不眠不休ナリ十二日大隊ヲ遂ニ南京城雨巷門ノ突撃ヲ敢行スルヤ危険ヲ意トスルコトヲ御隊ト共ニ突入シ死傷者ノ收容手當ニ奔走シテ後方安全ノ位置ニ後送シテ十日晝ニ至ル迄連日ノ疲勞困憊ニ打克チ

其任ヲ完フセルノミナラス責任觀念旺盛ニシテ積極的行動ハ將兵ノ士氣ヲ鼓舞シ其功績偉大ナリ

一 第九中隊 歩兵伍長 三木 勇

右十月午後三時三十分第一小隊ノ大隊復歸ト夫ニ雨巷門内突入シ當時城内ハ奮戦其極ニ達シ敵ハ執物ニ逐襲シ来ル情況ニ於テ小隊連絡掛下士官トシテ勇敢機敏其任務ニ邁進シ連絡ヲ確保シ小隊長ノ戰鬥指揮ヲ容易ナラシメタリ

一 第九中隊 歩兵上等兵 唐澤佐十郎

右十月十二日午後三時三十分第一小隊カ大隊ニ復歸ヲ命セラルルニ勇躍五時頃雨巷門附近ニ到着シアルニ尚敵火猛烈ニシテ城内ノ情況全ク不明ナルヲ以テ上等兵城内ナル大隊本部ト連絡ヲ命セラルルニ雨飛スル敵彈ヲ意トセズ城内入り本部ト連絡ヲ遂ケ小隊ヲ誘導シ第一線進出ヲ容易ナラシメタリ

一第十中隊

歩兵少尉

矢島源吉

右本戰鬥間第十中隊長代理トシテ部下中隊ヲ指揮シ十日
以來大隊ノ第一線中隊トシテ克ク大隊長ノ意圖ニ從ヒ常夜撃
成果ヲ擧ケテ十廿午後三時五十分南京城雨巷門ノ占領ニ當リテハ
先頭中隊トシテ沈着部下ノ指揮掌握適確率先果敢ナル
突撃ヲ敢行シテ城門ヲ占領之ヲ確保シ大隊戰捷獲得ノ因ヲ作
爲シタルハ功績拔群ナルモノト認ム

一第十中隊

歩兵少尉

賀川友一

同

同

飯塚直路

右十月以來終始第一線小隊長トシテ奮斗シ十月十廿南京城占
領ニ際シテハ先頭突入中隊小隊長トシテ克ク中隊長ヲ補佐シ勇
敢ナル突撃ヲ敢行シ賀川少尉ハ先頭小隊長トシテ工兵ノ爆破

ニ依リ第一番ニ門内ニ突入シ負傷ヲ負フモ屈セス奮斗力戦之ヲ占領確保シタル功績ハ拔群ナルモノト認ム

一等十中隊

歩兵伍長

北野 巳千彌

右ハ十一月十日以來十日拂曉陳家北方敵第一線掩蔽部陣地ニ迫スルヤエ兵ノ破壊班ト共ニ先行シ鐵條網下ニ這入リテ部下ヲ誘導シ竹害スル敵ヲ猛射セシメテエ兵ノ強行破壊ニ協力中隊突撃ニ移ルヤ先頭ニ立テテ穿貫的ニ陣内ヲ突破疾風ノ如ク最突再高地ニ進出果敢ナル追撃ヲ射撃ヲ以テ敵ニ逆襲ノ邊無カラシメタリ

十二月周家回東側高地ノ攻撃ニ當リテハ中隊進出掩護ノ命ヲ受ケ勇躍部下ヲ率ヒテ左方二百米ノ高地ヲ占據敵ノ集中射撃ヲ蒙リシモ敢然トシテ部下ヲ区処シ敵ノ自動火器ヲ制圧シテ中隊ノ雨霰台奪取ヲ容易ナラシム

午後三時三十分ニ兵架橋班ノ準備成ルヤ突撃命令ト共ニ克ク部下ヲ掌握シ南京城雨花門ニ突入シ一擧ニ前方百米家屋附近ニ進出シテ爾後間断ナク逆襲シ來レル敵ニ猛射ヲ浴セ或ハ小銃手ト共ニ出撃シテ之ヲ殲滅シ遂ニ城門ヲ確保セリ

第十中隊 歩兵伍長 黒澤勝次

右十日輕機分隊長トシテ十日未明ヨリノ陳家北方高地攻撃際シテ八部下ヲ激勵シテ彈雨下ノ中ヲ勇敢ニ前進地形地物ノ利用巧ミニ敵前八十米ニ位置シ槍蓋ト一ケカ及手榴彈多數所持セル敵ニ対シ猛射ヲ浴セテ中隊ノ突撃ヲ容易ナラシメ突入ト同時ニ機ヲ失セス右前方ニ躍進逃ケ場ヲ失ヘル敵カ逆襲セニトスルヲ發見機敏ナル射撃ヲ以テ之ヲ殲滅ス

十日雨花台ノ攻撃ニ於テモ常ニ部下ヲ手中ニ勇敢ニ攻撃前進ニ南京城壁ニ肉迫シ午後三時五十分中隊カ部隊ノ先陣トシテ

雨巷門突入ヲ命セシレ黑澤分隊長ハ兵ノ城門爆破第一回不完
全ナルヲ見ルヤ左壁破壊部ヨリ城壁上ニ攀上リ續ク川尻上等兵
鈴木一等兵ヲ激勵シテ左城壁上及城内ノ敵ヲ猛射シ内川尻上等
兵先ツ重傷續イテ鈴木一等兵重傷セルヲ見テ憤激彈藥ヲ補
給シツ自ラ輕機ヲ以テ猛烈ニ射撃手毅然トシテ數回ニ亘ル敵
ノ逆襲ニ死ストモ動カサル覺悟ヲ以テ單身良ク之ヲ撃手退奮
斗シ雨花門上ヲ確保シ部隊ノ突入進出ヲ容易ナラシメタリ

第十中隊

歩兵伍長

湯淺徳造

右十二月十日南京城雨巷門突撃事ニ際シ中隊長代理矢島
少尉ニ續イテ城内ニ躍リ入リ中隊長代理ノ命ニ依リ直ニ敵ノ逆
襲前ニ城壁上ノ大隊本部ト連絡シメ城壁上ニ馳ケ上リ敵ニ
逆襲ノ氣配アルヲ察知スルヤ城壁上ニ速ニ自動火器及相當
兵力ノ必要アルヲ認メ彈丸雨飛中城内ニ馳ケ下リ中隊長ニ

報告セリ尚城内ニアリテハ城壁上ニ自動火器ヲ誘導シ或ハ混乱シテ殺列
スル友軍整理シシ城内ヨリ或ハ城外ヨリ不足ヲ訴フル城壁上ノ自動火器ノ
彈藥ノ補給ニ必死ノ努力ヲ致シ以テ此ノ激戰中火力ヲ増加セシメ
完全ニ城壁上ヲ確保スルヲ得シメタリ

第十中隊

歩兵上等兵

土屋久一

右十二月十日以來第一隊第一分隊長トシテ部下ノ掌握實砲彈下勇
敢ナル攻撃前進ヲナシ十日陳家北方附近、戰鬥ニ於テハ大隊本部ノ護
衛分隊トシテ不意ノ敵襲ニ際シ適切射撃指揮ヲ以テ之ヲ撃退シ
十日雨花台、攻撃ヲニ於テ午後三時三十分中隊カ部隊ノ先陣トシテ雨巷
門突入ヲ命セラレ第一隊長ノ指揮下入り城門第一回爆破不完全ナル
ヲ知リ城門左上方破壊部ヨリ突入シ鐵道線路左側家屋ノ一角ヲ占領
シ城内ノ敵ニ対シ猛火ヲ浴セ數回ニ亘リ逆襲セル敵ヲ撃退シ終
夜交戦之ヲ確保シ部隊ノ突入進出ヲ容易ナラシメ雨巷門ヲ確保

セリ

第十中隊 歩兵一等兵 齋藤 登 作

右八十二月十日以來第一線輕機關銃分隊彈藥手トシテ猛烈ナル敵迫
撃砲機銃彈下ニ穀然トシテ任務ニ邁進射手ト共ニ克ク前進ニ努
メ遂ニ尚家樓子ノ稜線ニ進出シ優勢ナル敵ノ逆襲ヲ撃破シテ之カ確
保ニ任ス翌十日陳家村北方ノ敵第一線掩蔽部陣地ニ対スル拂曉攻撃
ニ際シテハ工兵破壊班援護ノ多ク先行シ鉄條網下ニ這入り射手ヲ扶ケテ
竹害スル敵ヲ猛射シ突撃路ノ開設ニ協力中隊突撃手ニ移ルヤ小隊ノ
先頭ニ在リ拳銃手榴彈等ヲ以テ壕内ノ敵ヲ掃滅シツテ輕機ヲ護
リテ疾風ノ如ク最突再高地ニ進出果敢ナル追撃射撃手ヲナシテ敵
ニ逆襲ノ違無カラシメタリ十二日敵ヲ驅逐シテ一拳ニ城壁下街ニ進入
シ午前三時三十分工兵架橋班ノ準備成リ雨卷門ニ突入ノ際城壁崩壊
シテ射手ノ頭部ヲ強打視力ヲ失フニ至ルヤ直ニ代リテ射手トナリ城内

ニ突入シ城内家屋ノ線ニ於テ敵逆襲部隊ヲ猛射爾後奪回シタノ
間断ナク來襲スル敵ニ対シ沈着巧妙ナル射法ヲ以テ至近距離ニ
於テ悉ク殲滅シ遂ニ城門確保ノ任務ヲ遂行セリ

第十中隊

歩兵一等兵

鈴木福松

右八十二月十日尚家樓子附近ノ高地占領士日未明ヨリノ陳家北方附
近ノ高地攻撃ニ於テハ第一線輕機關銃射手トシテ砲煙彈雨の中ヲ
勇敢ニ前進シ地形地物ノ利用巧ニ敵前八十米ニ銃ヲ据エ掩蓋
トシ陣地及手榴彈多數所持セル敵ヲ猛射シテ工兵ノ鐵條網
破壊作業ヲ掩護シ中隊ノ突撃ヲ容易ナラシメ突撃ト同時ニ機
ヲ失セス右前方ニ躍進シ敵カ逃ケ場ヲ失ヒ我ニ逆襲セントスルヲ
發見機敏ナル射撃ヲ以テ之ヲ殲滅シ陣地ヲ奪取ス
十二日雨花台ノ攻撃ニ於テ午後三時三十分雨花門突入ノ命下ルヤ黒
澤分隊長ト共ニ眞先ニ城門左城壁ノ破壊部ヨリ城壁ニ攀上リ

城壁上、敵ヲ射撃シ川尻上等兵ヲ敵彈ニ倒ルヤ鈴木一等兵ハ直チ
ニ輕機ニ飛付キ射撃ヲ續ケ左城壁上ヨリ敵ハ雪崩ノ如ク打寄セ城
門ヲ奪回セント逆襲スルヲ五十米以内ニ引寄せ俄然猛射セルヲ以テ
敵ハ狼敗退却スルニ至ル不幸一彈ハ同一等兵ノ頭部ヲ擦過銃創シ
失神セルモ尚輕機ヲ手放サス其ノ責任觀念ト勇敢ナル行動ニヨリ
敵ノ逆襲ヲ挫折セシメタリ

一第十中隊 歩兵上等兵 高橋波次郎

右十二月十二日午前五時五分曉闇ヲ利シ南京城東南角ニ向ヒ攻撃
前進ヲ開始シ連續スル敵ノ縱深陣地ヲ次々ニ破^突シ敗走スル敵ニ追
尾シテ午前八時早クモ雨巷門東南方六〇米ノ高地ヲ占據セリ
當時中隊ノ占領セル高地ノ右前雨花台ニ進出セル大隊ハ十中隊ニ連
カニ雨花台高地ノ陣地ヲ占領スヘキ命ヲ下ス此命令ヲ中隊長代理矢
島少尉ニ傳達ノ命ヲ受ケタル高橋上等兵ハ些ノ躊躇スル所ナク勇敢ニ

交通壕ヲ飛出シ敵彈飛下ニ敢然ト身ヲ挺ス中隊マテノ距離實ニ四
百米然モ連絡経路ハ凹地ニシテ敵ノ側射猛烈ナル中ヲ沈着機敏ニ早
馳テ或ハ匍匐ニテ前進遂ニ其ノ任ヲ果シ中隊ヲ迅速ニ所名ノ位置ニ
誘導シタリ而シテ中隊ハ敵ノ虛ニ乘シ之ヲ急襲シ遂ニ敵ヲシテ多
數死体ヲ遺棄シテ北方ニ潰走セシメ其ノ任務ヲ遂行スルヲ得タリ

第十中隊

歩兵上等兵

佐藤助太郎

右ハ十月十一日陳家北側附近ノ丘陵ニ縱深的配備ヲ以テ鐵條網
ヲ張り廻ラシタル堅固ナル敵陣地攻撃ニ際シテ擲彈筒手トシテ
迅速果敢有効射距離内ニ突進シ筒手ヲ誘導シテ敵自動火
器及壕内ヲ射撃シ中隊ノ突撃ノ動機ヲ作爲シ中隊突撃ニ
移ルヤ共ニ起テ銃劍ヲ振ヒ陣内深ク突入ス
翌十二日雨花台奪取戦ニ於テ班長重傷ヲ受クルニ至ルモ屈セス班
員ヲ叱咤激勵シ爲ニ士氣益々振ヒ午後三時五十分隊長ト共ニ一九トナ

リテ南京城門ニ突入シ左高地ニ據リ自ラ筒ヲ採リテ逆襲スル敵ノ大部隊ヲ粉碎シ小銃分隊ヨリ手榴彈ヲ補給ヲ受ケテ總計百數十發ヲ射撃シ以テ敵ノ逆襲ヲ迫ラ挫折シ後續部隊ノ城内進入ヲ容易ナラシメタリ

一 第十一中隊

准尉

早川要三

右六十二月十日中隊准尉トシテ克ク中隊長ヲ補佐シ同日午後第一小隊長敵
彈ニ殲レ小隊長代理ヲ命ゼラルヤ掌握確實實士氣ヲ振作シ果敢ナル攻撃ヲ
續行シ十日早曉ヨリ大隊ノ左第一線中隊ノ第一線小隊長トシテ陳家西北側高
地敵ノ縱深陣地ノ攻撃ノ際シテハ敵猛火ノ中ヲ交通壕ヲ傳ハツ前進二百米
敵ノ不意ニ乘スル等其ノ行動勇敢ニシラ本戦斗ヲ極メテ容易ナラシメ午後二時
ニ十分腰部及胸部貫通シ重傷ヲ受ケタルニ責任觀念旺盛ニテ尚指揮ヲ續行シ
中隊長ノ嚴命ニヨリ漸ク後退セリ

一 第十一中隊

伍長

境野平八郎

右六本戦斗間中隊指揮班長トシテ終始敵彈ヲ意トスルコトナク勇猛果敢ニ中小隊
間ノ連絡ニ任シ中隊指揮班ノ掌握確實克ク中隊長ノ命令ヲ傳ヘテ小隊ノ戦斗
ヲ誘導シ十日午後敵ノ逆襲ニ當リテハ右足ヲ捻挫シ歩行意ノ如クナラサルニ屢
ニス死傷續出スル中ニ指揮班ヲ激励シテ勇猛果敢ニ奮斗シ十二日金陵兵工廠

攻撃ニ當リ一瞬ニシテ数名ノ死傷ヲ生シ其ノ收容極メテ困難ナル狀況ニ於テ伍長ハ中隊長命ニ依リ決死彈雨ヲ冒シテ躍進シ小隊長小林曹長ヲ收容スル等指揮班長トシテ中隊ノ戦斗ヲ極メテ容易ナラシメタリ

一 第十一中隊

伍長

笠原

勉

右ハ輕機関銃分隊長トシテ本戰鬥間終始最ニ積極的且果敢ニ奮斗シ特ニ土日午前陳家西北側敵陣地奪取ニ於テハ射撃以下三名死傷ヲ生スルニ至リタルモ屈セス彈雨下敢然トシテ部下ヲ激励シ自ラ射撃トナリ遂ニ前方トチカ陣地ヲ沈黙セシメ中隊ノ攻撃ヲ前進ヲ著ルシク容易ナラシメテ日金陵兵廠占領ニ至ル迄克ク奮斗セリ

一 第十一中隊

上等兵

飯塚三男人

右者十月十二日周家凹東側高地ノ戰鬥ニ於テ輕機関銃射撃トシテ勇敢剛膽分隊長一心同体トナリ優秀ナル射撃ニ依リ中隊正面ノ敵ヲ制壓シ中隊ノ攻撃前進ヲ容易ナラシメ偶々分隊長戰死スルマ分隊長代理トシテ分隊ノ士氣ヲ鼓

舞之中隊ノ南京城々壁ニ向ヒ攻撃ヲ前進ヲ開始スルマ前進正面ノ敵ヲシ極メテ適切
且猛射ヲ浴セ之ヲ潰走セシメ中隊ノ戦ヲ容易ナラシメタリ

一 第十一中隊

歩兵上等兵

星野佐太郎

右ハ中隊指揮機関要員トシテ本戰鬥間主トシテ大中隊間ノ連絡ニ任シ行動勇敢
任務ノ遂行極メテ積極的ニシテ百折苦撓犧牲的精神ヲ發揚シ中隊ノ戦ヲ
極メテ容易且有利ナラシメタリ

一 第十一中隊

歩兵上等兵

小内良治

右ハ輕機関銃射手トシテ本戰鬥ニ参加ス十一日午前陳家西北側高地敵陣地ノ奪
取及午後ニ於ケル敵ノ逆襲ニ於テハ沈着克々輕機ノ威力ヲ發揚シテ中隊ノ戦ヲ容易
ナラシメ十二日周家凹東側高地ノ戰鬥ニ於テハ敵前百米ノ陣地ヲ占領シテ我前進ヲ
阻止セル掩蓋機関銃座ヲ猛射シ沈黙セシメ更ニ城壁方面ニ敗退スル敵ニ痛烈ナ
ル射撃ヲ浴セ大打撃ヲ與ヘ同中隊カ金陵兵ニ敵面ニ途中ニ於テ一有敵ノ猛射ヲ受

ケ苦境ニ陥ルマ身ヲ挺シテ敵側防重火機ヲ猛射シ之ヲ撲滅シ以テ中隊ノ苦境ヲ救ヒ本戦捷獲得ノ因ヲ作為セリ

一 第十一中隊 歩兵上等兵 井上鍋六

右小銃分隊トシテ参加シ十日午前四時曾家高地ノ敵陣地ノ偵察片候トシテ有利ナル報告ヲナシ周家山東側高地附近ノ戦斗ニアリテハ再ヒ中隊長ノ命ニヨリ敵彈雨飛ノ中ヲ勇躍前進シテ前方部落ノ情况ヲ偵察シ片候長ノ任務ヲ達成セシメ中隊ノ戦斗ヲ有利ナラシメタリ

又中隊ノ城壁外ニ。米ニ前進シ大隊ニ意見具申ヲ上等兵ヲシテ大隊本部ニ報告セシムルマ敵彈集中ヲ意トス敏速確實ニ任務ヲ遂ケ爾後小隊ニ復帰シテ勇戦奮斗他ノ士氣ヲ振作シ以テ中隊ノ戦捷獲得ヲ迅速ナラシメタリ

一 第十二中隊 歩兵伍長 牧田克三

右六十二月十二日雨卷門外架橋作業間豫備隊トシテ集結シテリシカ午後三時
自ラ中隊長ニ敵狀地形偵察ヲ申出勇躍出發セル之途中部下死傷續出セ
ルヲ以テ單身クリクテ泳渡シ敵岸ヲリテ待機中ノ深津軍曹等ト協力
シ大隊ノ架橋突進ヲ待テテ部隊ノ先頭ヲリテ城壁上ニ突入シ之カ占領ヲ容
易ナラシメタリ

一 第十二中隊 歩兵伍長 高平 清

右六日午前八時戦闘開始ト共ニ小隊長ノ指揮下ニアリ分隊長トシテ部下ヲ
勵マシツ、本道西側迄ヒ前進中鉄條網ノ為容易ニ前進シ得サルマ自ラ鉄條
網ヲ破壊シ單身輕機関銃ヲ携ヘ敵前約百米迄前進シ部下ヲ導キ尚
攻撃ヲ前進セントスルマ不幸敵彈ノ為前頭部ニ貫通銃創ヲ受カルニ至ル
此勇敢ナル行動ハ小隊ノ士氣ヲ鼓舞シ爾後ノ攻撃ヲ容易ケラシメタリ

一 第十二中隊 歩兵伍長 富澤幸三郎

右十日右側撃戦片候下ニテ前進中ニエツコ機関銃ヲ有スル敵ノ一部ヲ發見陳
家東方本道上附近ヲ占領交戦中午前十時十五分頃左胸部貫通銃創ヲ
受クルニ屈ス部下ニ命ジ敵情ヲ小隊長ニ報告セシメ輕機分隊ノ未援ノアルマデ分
隊長ハ極メテ元氣ヲ掩ハマラレタガ大丈夫ダシツカリマレト叫ビ部下ヲ勵マシ今地
方ヲ固守シ大隊ノ右翼ヲ掩護シ其戰鬥ヲ容易ナラシメタリ

一 第十二中隊 歩兵一等兵 鯉登清雄

右十日戰鬥開始ニ當リ擲彈筒手トシテ鉄條網トケカラ有スル陣地ノ奪取ニ
任シ勇敢ニモ單身陳家南方戰車壕ヲ利用シ敵前約百五十米ノ地矣至リ擲
彈筒ヲ發射シテ敵ヲ撃退シ且ツ曾家門附近ノトケカラ内ニ入ラントスル敵兵ニ名
ヲ射殺セリ午後時三分頃第九師團第十九聯隊ニ連絡ノ任ニ當リ危險ヲ冒シテ其
任務ヲ完全ニ遂行シ其狀況ヲ明カニシ尚十二日午後中隊主力雨卷門突入ニ際
シ城壁上ヨリ落下スル石ヲ打撲傷ヲ受ケ左腕ス奮斗シ城門ヲ占領ヲ容易ナラシメタリ

一、第三機関銃中隊

歩兵少尉 田口幹一郎

右、本戦闘間機関銃第一小隊長トシテ十二月十日陳家南方高地ヲ占領ニ當リ左第一線中隊進出稍ニ遅ルヤ敵彈ヲ意トセズ小銃中隊ニ先ニシテ右高地ヲ占領シ又十日早朝陳家北側縱深陣地攻撃ニ終始第一線ニ進出シテ第一線中隊ト完全ナル協力ノ下ニ突撃ト射撃ヲ及復シテ大隊戦闘最モ容易ナラシメ十日周家山東側高地ヲ占領スルヤ其威力ヲ最高度ニ發揚シ且積極的ニ行動シテ遂ニ大隊ノ他隊ニ魁ケンテ南京城壁ニ對スル攻撃ヲ容易且迅速ナラシメタルハ功績拔群ナルモノト認ム

一、第三機関銃中隊

歩兵曹長 東野市郎

右小隊長トシテ彈藥小隊ヲ指揮シ十二月十日早朝灣里ニ到着スルヤ一月ニ亘ル長途ノ疲勞ヲ克伏シテ直ニ彈藥ノ補給並補充ニ任シ其ノ處置適切且勇敢ニシテ克ク三日ニ亘ル激戰中彈藥ノ補給ヲ完フシ十二月

午後自ら進シテ戰銃隊小隊長ヲ願ヒ第二小隊長ヲ命セラルヤ部下ノ指揮勇敢射撃ノ威力ヲ發揮シ大隊ノ兩巷門突撃ニ當リテハ適切ナル掩護射撃ニ依リ城壁上ノ敵ノ制壓ニ任シ大隊ノ突撃ヲ容易ナラシメタルハ功績拔群ナリト認ム

一、第三機関銃中隊

歩兵伍長 小笠原米一

右中隊命令受領者トシテ頗ル勇敢且適切ニ活躍シ特ニ十月十日激戦ニ際シ彈藥欠乏セルニ際シ中隊長ノ命令ニ基キ或ハ独斷ヲ以テ彈藥ノ運搬蒐集ニ絶大ノ活躍ヲ爲シ中隊ノ戰鬥ヲ繼續セシメ又負傷セルニ拘ラズ十二月十二日午前十一時ニ十分頃敵動搖シ退却ノ兆アルヲ中隊長ニ報告シ又中隊及第十中隊力追撃ヲ前進スルヤ之ヲ大聲以テ大隊本部及第十中隊ニ傳ヘテ追撃ヲ前進ヲ促ス等其ノ行動ハ其功績拔群ナリト認ム

第三大隊將校同相當官(准尉ヲ含ム)職員表

十二月十日現在

考 備	本部		區分		備 考
	中隊長	小隊長	准尉	少尉	
一〇ハ戦死△ハ負傷ヲ示シ内部ノ数字ハ死傷ノ日ヲ示ス ×ハ負傷セルニ係ト行動ヲ共ニシアルモノヲ示ス 二附清水少尉平病入院中、西山少尉行李掩護隊トシ指揮ヲ離レアリ 三第十中隊長ハ戦死、矢島少尉中隊長ヲ代理ス	大隊長(准尉) ④倍澤清郎	副官(現)大尉 ×金栗敏光	軍醫(准尉) 宮下貞雄	根岸憲 王計(現)少尉 佐藤義雄	
	中隊長	小隊長I	准尉	少尉	9
	右中尉 野間仁一	少尉 関口文夫	少尉 吉田晋作	少尉 西山源次郎	
		少尉 矢島源吉	少尉 飯塚直路	少尉 △賀川友一	10
	右中尉 工藤基	少尉 ④浅川秀	少尉 ④松橋義男	少尉 小比木時治	11
	右中尉 眞壁秀雄	少尉 遠間公佐久	少尉 平石仲次郎	少尉 天川進午	12
右大尉 永井作三	少尉 田口幹一郎	少尉 清水時男	曹(彈小) 東野市郎	MG	

第三大隊本部編成表

十月十日現在

大隊本部	本部傳令	中隊司令	大行本子及馬匹
大隊長 △佐 信澤清三郎	○高木勝二	○一長瀬兼吉	小行本子任長
同副官	上○木内尚可	○一島村年次	坂庭徳治以下
△中尉 金栗敏光	△○小林久夫	10上 武井徳松	三十名
軍醫	○今井七五三	10一 柴山與作	馬匹三十四頭
少尉官下貞雄	一○井上國雄	10一 石川盛造	外三乘馬二頭
軍醫	△○飯塚徳室	11一 櫻井多吉	
少尉根岸憲	一○福田茂利	11一 小林政一	
主計	△○今泉六市	12一 中野三次	
少尉佐藤義雄	△通 新井昌平	12一 石井主馬吉	
書記	一○金子包得		
△軍曹 深津静夫	上○清水麻寿		
△伍長 廣瀬重雄	特馬 横山玖平		
兼給與係	○特馬 右原政雄		
△伍長 齊藤正臣	○特馬 戸塚邦市		
連絡係	○特馬 福田右左二		
伍長中島一雄			
瓦斯掛			
○伍長 小林昇			
衛生係			
伍長 飯塚大三			
立計			
伍長 大塚省三			
計 一二	計 一五	計 九	計 人員 三十一 馬匹 二十六
總計人員六八名 馬匹三十六頭			
備考	△○戦死セルモノ △○負傷入院 △軽傷ニシテ隊卜行動ヲ共ニシアルモノ 一等兵金子包得十月十日以降旅團勤務上等兵清水麻寿十月十日毛布監視 トシテ残置 大行本子青土百以降指揮下ヲ離ル		

昭和十二年十月十六、十七日戦闘詳報

附表第一

第三大隊死傷表

備考	計	3MG	12	11	10	9	本部	部		戦闘参加人馬	死	傷	生死不明
								隊	分				
本表外軽傷ニシテ隊ト行動ヲ共ニシタルノ 金栗大尉、平石少尉、工藤准尉 下士官四、兵四五	三	三	四	四	三	四	五	將校	准尉	下士官馬匹	將校	准尉	下士官馬匹
	四		一	一	一	一							
	六	八一	一四五	一五九	一三九	一二三	六二	二八	將校	准尉	下士官馬匹	將校	准尉
	九	四二											
	三			二			一						
	一				一								
	三	三	七	二	八	一	四	二	將校	准尉	下士官馬匹	將校	准尉
	二												
	一					一							
	九	一一	一八	二四	三二	一	六		將校	准尉	下士官馬匹	將校	准尉
	二												

昭和十二年十月十六、十七、十八日 戦闘詳報 附表第二

第三大隊武器彈藥損耗表

備考	合計	種類					本部	隊藥		號		
		3MG	12	11	10	9		彈	分	機	銃	
一 損失兵器ハ战斗中敵彈ノ爲毀損セルモノナリ 二 機関銃本表ノ外小銃彈五七六リヲ射耗セリ	八六〇		二四	三三	三九	六四	一六	機	銃	小		
	四二		五五	四七	九七	四三	二五	機	銃	機		
	三三	三三										
	三三	二一	七	一四	一六	一七		彈	榴	手		
	四三											
	三一											

昭和十二年
十月十六日

戦闘詳報

附表第三

第三大隊鹵獲表

種類	浮虜	戦利品	備考
	准士官 下士官	馬匹	<p>本表戦利品大部ハ兵工廠ノ占領ニ依リ鹵獲セルモノトス 本表外戦場ニ遺棄セルレタル兵器彈薬ハ相當多數ニ上リタルニ 狀況上蒐集携行不可能ニテ大部ハ現地ニ於テ處置或ハ放 棄セリ</p>
	銃	迫撃砲	
	小銃 拳銃	實砲	
	小銃彈	機閉銃	
	六	砲彈	
	迫撃砲 二九口	爆彈	
	三六口	手榴彈	
	五口	器具	
	馬具 百口	重油	
	三口	糧秣	
	米 其他多數	被服 靴	